

モデル地区における情報通信機器等を用いた遠隔診療の試行的導入の進め方

○内 容

モデル地区において、協力獣医師が、日頃から診療している農家の協力を得て情報通信機器を用いた遠隔診療を試行的に実施し、獣医師による直接診療をどこまで代替できるか等、遠隔診療の実施条件や課題を検証するための事例を収集する。

○方 法

協力獣医師が農家を訪問した際に実験的に試行するケースや、電話等で疾病の情報を聞いて遠隔診療するケース等、実情に合わせて実施。

○導入・活用する機器の例

- ・カメラ及び関連機器（アクセサリ（装着、防水用）、マイク、ライト、SDカード）
- ・wifi ルーター
- ・情報通信端末（タブレット、ノートPC）
- ・コンピューター関連機器（ヘッドセット、キーボード、マウス、モニター）
- ・ポータブルエコー
- ・電子聴診器
- ・関連ソフトウェア

※上記は一例であり、利用する機器はモデル地区の実情に合わせて必要なものを導入。

○事業費として支出可能な費目（内容の例と金額の目安）

- (1) 情報通信機器等購入費（関連機器等の購入、1地区30万円）
- (2) 賃借料（資機材のリース等、1地区25万円）
- (3) プログラム実施費（農場等の施設使用料（協力謝金）、器具資材費、現地消耗品費等、1地区40万円）
- (4) 技術指導費（協力獣医師の人件費、事務人件費等、1地区30万円）
- (5) 技術指導旅費（診療以外の現地移動旅費、1地区20万円）
- (6) 通信運搬費（郵便代、資材送料等、1地区5万円）

※経費は、モデル地区1地区あたり上限150万円